

美馬市木屋平地区の民間薬調査

民間薬調査班（徳島生薬学会）

川添 和義 ^{*1}	伏谷 秀治 ^{*1}	柏田 良樹 ^{*2}	鎌倉 孝法 ^{*2}	鈴木 恭子 ^{*2}	橋田 和佳 ^{*2}
田島壮一郎 ^{*1}	森 剛志 ^{*1}	野口 裕高 ^{*1}	堀之内裕也 ^{*1}	山下祐紀雄 ^{*1}	金 尚永 ^{*2}
田岡 寛之 ^{*2}	谷口 昌聖 ^{*2}	西村 和也 ^{*2}	岡本由梨恵 ^{*3}	三橋 洋介 ^{*3}	三浦 恵理 ^{*3}
吉田 修平 ^{*3}	高石 喜久 ^{*2}	水口 和生 ^{*1}			

要旨：徳島県下で伝承されている医薬品（民間薬）調査の一環として、美馬市木屋平地区における民間薬調査を行った。戸別訪問によるインタビュー形式で、現在利用している、または過去に利用していた民間薬について、その名称、利用目的、利用方法について尋ねた。その結果、173名の人から回答を得て、1,161件の情報を収集することができた。品目は約160種類が確認できた。また、「イシャイラズ」などとよばれる民間薬についてその起原を調査した結果、主にゲンノショウコをそのように呼ぶことがわかった。平成18年度の三好市東祖谷地区における民間薬調査結果と比較しながら木屋平地区における民間薬伝承の実態を考察した。

キーワード：民間薬、伝承薬、調査研究、木屋平村、イシャイラズ

1. はじめに

民間薬とは地域に伝承される医薬品のことであり、広くは漢方、アーユルヴェーダなども民間薬を基盤とするものであるが、大きく異なるのは漢方などの伝承医薬（医学）は書物による伝承がなされており、その書物が継承される限り未来永劫にこの情報が残っていくものである。一方、今回調査対象とした民間薬は文書での伝承は全くなく、もっぱら口伝で代々受け継がれていっているものを指す。このような情報は伝承の担い手がなくなるとその時点で消滅するものであり、各地における文化保護の観点から一刻も早い文書化が求められている。そこで、我々は徳島県における民間薬の利用調査を行ってきた。今回はその一環として平成19年は美馬市木屋平地区の調査を行ったので報告する。

美馬市木屋平地区はかつて美馬郡木屋平村と称していた地区であり、平成17年3月1日に美馬郡内の他の地域と合併して美馬市の一地区となった。ここには1,300人強（約600世帯）が暮らしているが¹、そ

の約4割は65歳以上の高齢者で、徳島県の内でも高齢化の著しく進んだ地区の一つである。この地区は西に剣山を臨み、四方を険しい四国山地に囲まれた山深い地域にある。また、古くから天皇家に献上する麻布（麩服）を織ってきた阿波忌部の里として知られており、三木家など旧家も多く残るためユニークな文化が継承されている可能性のある地域でもある。ただ、過疎化・高齢化の急速な進行は伝承医薬についても危機的な状況を生み出しており、情報の収集が急務であることには違いない。

これまで本地区における民間薬の調査はほとんどなされたことがなかったことから、今回、戸別訪問により、地域に伝承される民間薬に関する情報の収集を行ったのでその詳細を報告する。また、本地区は平成18年度の調査地である三好市東祖谷地区と境をなしていることから、平成18年度に行われた東祖谷地区の調査（以下、18年度調査）結果²と比較しながら木屋平地区における民間薬利用の特徴についても論じたい。

*1 徳島大学医学部・歯学部附属病院薬剤部

*2 徳島大学大学院薬科学教育部天然医薬品学分野

*3 徳島大学薬学部生薬学研究室

表1 地域別・年齢別の情報収集件数（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
大北	0	0	0	16	31	23	66	136
川井	0	10	18	19	42	4	28	121
川上	0	0	25	14	33	16	21	109
下名	0	0	5	13	85	0	1	104
森遠	9	0	15	38	29	0	11	102
谷口	0	9	7	7	32	4	40	99
谷口カケ	0	0	19	13	19	1	11	63
檜原	0	1	0	10	23	1	19	54
南張	0	11	0	0	8	0	26	45
櫛木	0	0	9	32	3	0	0	44
八幡	0	0	2	4	18	7	11	42
太合	0	0	14	15	0	0	6	35
桑柄	0	0	8	15	9	0	0	32
弓道	0	0	0	0	13	0	14	27
三ツ木	0	5	0	0	5	16	0	26
竹尾	0	4	0	0	21	0	0	25
二戸	0	0	0	0	15	6	4	25
小日浦	0	0	0	10	12	0	0	22
麻衣	4	0	0	0	5	13	0	22
葛尾	0	0	0	0	0	15	0	15
今丸	0	0	0	0	13	0	0	13
計	13	40	122	206	416	106	258	1,161
全回答件数に対する割合(%)	1.1	3.4	10.5	17.7	35.8	9.1	22.2	—
回答者数(人)	3	7	18	31	60	16	38	173
1人(戸)あたりの平均回答件数	4.3	5.7	6.8	6.6	6.9	6.6	6.8	6.7
用途不明	5	11	27	48	92	20	42	245
用途不明と回答した比率(%)	38.5	27.5	22.1	23.3	22.1	18.9	16.3	21.1

2. 調査方法

基本的な方法は18年度調査に準じた。

1) 調査期間

調査は基本的に平成19年7月28日から3日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

2) 調査形態・内容

調査形態は、1人ないし2人で戸別訪問し、対応してくれた人に対してインタビューした。当地区の住宅地図を参考として、重複してインタビューがなされないように留意した。また、調査地点名も記録した。

質問内容は、これまでに利用したことがある、もしくは聞いたことがある民間薬の名前（方言、その

他）、利用目的、利用方法、その他の情報である。その際、その薬は動物や加工品など植物に限らないことを伝えておいた。また、人に対してのみではなく家畜、ペットなどに使用する薬物がないかも尋ねた。18年度調査と同様にこの地区においても、「イシャイラズ」、「イシャダオシ」またはそれに類似した名称で呼ばれる民間薬があるかどうかを尋ねた。なお、調査対象の情報として、可能な限り年齢、性別、居住年数を記録した。なお、1戸を一単位として調査し、同一民間薬が繰り返し出現した場合には合わせて一つの情報とした。ただし、明らかに用法や使用目的が異なるものは別の情報として記録した。

3) 同定

できる限り薬の実物を見せてもらい、わかるもの

表2 品目別情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が11件以上(件)

	情報件数	用途不明	用途不明率(%)		情報件数	用途不明	用途不明率(%)
ドクダミ	157	55	35.0	タヌキ	20	0	0.0
ゲンノショウコ	114	41	36.0	イチイ	17	7	41.2
ニホンマムシ	88	3	3.4	トチバニンジン	16	4	25.0
センブリ	75	9	12.0	タラノキ	15	1	6.7
ヨモギ	57	5	8.8	イタドリ	14	4	28.6
オオバコ	51	17	33.3	ウラジロガシ	14	0	0.0
ユキノシタ	28	5	17.9	ビワ	13	4	30.8
アロエ	25	2	8.0	ホウセンカ	13	2	15.4
マタタビ	25	7	28.0	タンポポ	12	10	83.3
キハダ	23	3	13.0	カキドオシ	11	4	36.4
オトギリソウ	21	7	33.3	起原不明	33	3	9.1

b. 情報件数が3~10件

7~10件 (11品目)

サルノコシカケ, トウモロコシ, イノシシ, ウコン, スギナ, ナンテン, サフラン, ダイコンソウ, ツワブキ, ニホンザル, ヤマゴボウ

5~6件 (7品目)

イワタバコ, カキノキ, チリメンジソ, アケビ, アザミ, キササゲ, タデ

3~4件 (31品目)

アオキ, アマチャヅル, ツキノワグマ, ツヅラフジ, ツユクサ, ヒガンバナ, フキ, ウツギ, ウド, ウメ, オモト, カリン, タコ, コイ, サル, スイセン, ニガキ, ニラ, ヘクソカズラ, ユズ, 梅エキス

に関してはその場で同定した。わからなかったものに関しては可能なものについては標本として採集させてもらったが、持ち帰れないものに関してはデジタルカメラでの写真をもとに同定を行った。また、名前しかわからない場合は、これまでに木屋平地区で確認されているものとした³。

3. 調査結果および考察

1) 調査対象

調査対象は男性39名(22.5%), 女性73名(42.2%), 複数名で回答25名(14.5%) 不明36名(20.8%) の合計173名(戸)であった。これは当地区全戸数の約29%に相当する。年齢別では40歳未満3名, 40歳代7名, 50歳代18名, 60歳代31名, 70歳代60名, 80歳以上16名, 不明38名であった。

2) 情報の概要

得られた情報は全部で1,161件あり, これらを種類別に見ると, 植物由来983件, 動物由来153件, 菌類16件, 加工品・その他9件であった。調査地別, 年齢別の件数は表1に示すとおりで, 比較的人口の密集している川井, 大北地区で多くの情報が得られ

た。年齢別に見ると18年度調査と同様に70歳代からの回答が最も多く, 次に60歳代で80歳以上や50歳以下からはあまり多くの情報が得られなかった。また, 1人あたり(1戸あたり)の平均回答数は50歳代以上で7件程度であり, 40歳代以下ではやや低かった。年齢層と回答率の傾向は18年度調査と類似していた。なお, 1人あたりの回答数で最も多かったのは43品目であった(表2)。

全体で民間薬は約160種類確認された。起原の偏りは18年度調査と同様に認められ, ドクダミ, ゲンノショウコ, ニホンマムシ, センブリ, ヨモギ, オオバコ, ユキノシタの7品目で全体情報件数の50%近くを占めていた。また, 表2に示した上位21品目(情報件数が11件以上のもの)で70%近くに達していた。このうちドクダミ, ゲンノショウコ, ニホンマムシ, センブリは18年度調査でも上位7位に入っており, 回答内容の傾向が18年度調査と大変類似していることがわかった。異なっている点としては, タヌキ, トチバニンジンなどが比較的上位に出現している点である。

表3 複方で用いられている薬材例

使用目的	薬材	使用方法	情報採集地
腎臓病	ヤマゴボウ(根) アズキ	併せて煎じて飲む	川 上
糖尿病	カキドオシ タラノキ(樹皮)	併せて煎じて飲む	太 合
腎臓病	ヤマゴボウ(根) キササゲ(実)	併せて煎じて飲む	下 名
不眠	ミツバ フユイチゴ(実, 根)	併せて煎じて飲む	下 名
胃腸病	ゲンノショウコ ドクダミ	併せて煎じて飲む	麻衣, 樫木他
風邪	ニラ コメ ミソ	併せて粥にして食べる	太 合
咳止め, 喘息	カラスビシャク(根) ドクダミ ゲンノショウコ	カラスビシャクの根を2-3個と他の植物を一緒に煎じて飲む	大 北
膝の痛み	ヒガンバナ(根) ヒマワリ(種子)	根をすりつぶしヒマワリの種と併せて患部に貼る	八 幡
胃薬	キハダ(樹皮) ドクダミ	併せて煎じて飲む	谷 口
はしか	エビ(殻) セリ	併せて煎じて飲む	大 北

3) 利用目的・方法について

利用目的に関しては情報件数全体の21.1%に当たる245件が「不明」であったが、これについては18年度調査(「不明」が24%)と比較するとやや少ない。しかし、表2に見られるように情報件数の多いものに用途不明率(その民間薬全体の情報件数と利用目的を「不明」と回答した件数の割合、以下同じ)が35%以上であったものが多く見られた。18年度調査では売っただけで利用法を知らないというものが多かったため用途不明率が高い結果となってい

たが、今回の調査では、売っていたと回答したものはアオツヅラフジ(1/1)(括弧内は、売っていたと回答した情報件数/全情報件数、以下同じ)、アカメガシワ(1/1)、アケビ(1/5)、アスナロ(1/5)、イチイ(2/17)、オオバコ(2/51)、オトギリソウ(2/21)、キハダ(1/23)、ゲンノショウコ(1/114)、ダイコンソウ(1/7)、タンポポ(1/12)、ツヅラフジ(2/4)、ドクダミ(7/157)、トチバニンジン(2/16)、ニガキ(1/3)、ビワ(1/13)、不明(2/33)と、種

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材(件)

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
ゲンノショウコ	1	4	8	20	38	9	16	96
ドクダミ	0	1	2	2	4	0	1	10
アロエ	1	0	2	0	1	0	0	4
ウンシュウミカン	0	0	0	0	1	0	0	1
クワ	0	0	0	0	1	0	0	1
ゴシュユ	0	0	0	1	0	0	0	1
不明	0	0	0	1	4	1	3	9
計	2	5	12	24	49	10	20	122
全体の回答数に対する比率(%)	15.4	12.5	9.8	11.7	11.8	9.4	7.8	10.5

表5 地域別にみた「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材(件)

	ゲンノ ショウコ	ドクダミ	アロエ	その他 ・不明	計
大北	10	2	0	1	13
川井	16	1	0	2	19
川上	9	0	0	2	11
下名	6	2	0	0	8
森遠	3	1	3	4	11
谷口	8	0	0	0	8
谷口カケ	6	1	0	0	7
檜原	3	1	0	1	5
南張	1	0	0	1	2
櫛木	5	0	0	0	5
八幡	6	0	0	0	6
太合	3	1	0	0	4
桑柄	2	0	0	0	2
弓道	3	0	0	1	4
三ツ木	2	0	1	0	3
竹尾	1	1	0	0	2
二戸	3	0	0	0	3
小日浦	4	0	0	0	4
麻衣	4	0	0	0	4
葛尾	0	0	0	0	0
今丸	1	0	0	0	1
計	96	10	4	12	122

類は多いものの件数としては少なかった。このことから、用途不明率が比較的高かったのは実際の使用経験がないことが主な原因ではないかと推察される。不明率を年齢別に見ると若年層で高く、高齢者層(80歳以上)で低いが、これは利用経験の差を反映しているものと考えられる。

利用方法については、ほとんどが単味での利用であるが、複方利用が約2.5%にみられた(単味1,132件, 複方29件)。複方利用が18年度調査(複方での利用が約4%)に比較して少ないが、例えば不眠にミツバとフユイチゴの葉または根を合わせて煎じて飲むなど、あまり例のない組み合わせも見られた。表3に複方として利用されていたものの例を挙げた。最も多い組み合わせはゲンノショウコ, ドクダミとの組み合わせで主に胃腸薬として利用されていた。また, カラスビシャクを咳止め, 喘息に利用したのがあり, 恐らく漢方薬の影響を受けたものであると推測される。

4) 「イシャイラズ」調査

18年度調査と同様に「イシャイラズ」などと呼ば

れる民間薬があるかどうかを尋ねた。今回の調査では情報件数の約1割がそれに該当していることがわかった。また, 呼び方は「イシャダオシ」というものが多かった。表4に示すように起原は79%がゲンノショウコであり, わずかにドクダミ, アロエなどがあった。18年度調査ではアロエが最も多く次いでゲンノショウコであった。年齢別に見たところ, 情報数の極端に少ない40歳未満を除いてどの年齢層からも比較的偏りなく回答があった。また, 地区別に見てもやはり偏りは少なく, ほぼ全地域でゲンノショウコを「イシャイラズ」, 「イシャダオシ」などと呼んでいた。ただ, 興味あることにゲンノショウコはこのように呼ばれるにもかかわらず, そのうちの37.5%にあたる36件は用途がよくわからないと回答していた。このことは, 伝承はされている, もしくは知識として知っているものの実際の利用がないことをよく反映していると考えられる(表4)(表5)。

5) 薬材の名称

18年度調査と比較して, 今回の調査では方言で回答のあった例が少なかった。例えばゲンノショウコは東祖谷地区の大部分で「ミコシグサ」と呼ばれていたが, 木屋平地区でこのように呼ぶ例はわずかであり, ほとんどは標準和名で呼ばれていた。他には, ヨモギを「ヨゴメ」, トチバニンジン「ケニンジン」, イワタバコを「イワヂシャ」と呼ぶが, これは東祖谷地区とほぼ同じである。18年度調査では見られなかった名称として「ツプロ」(ヒガンバナ), 「オジノシリスケ」(サルノコシカケ), 「ヤマカブラ」(ヤマゴボウ)などが挙げられる。今回の調査から, 方言名での伝承が余りなされていないのではないかと推察された。このことは, この地区で民間薬として認識しているものの多くが, 直接の口伝ではなくテレビや書物からの情報である可能性が高いことを示唆していると考えられる。

6) 利用目的と利用方法

利用目的は18年度調査と同様, 非常に多岐に渡っており, 特に解熱(105件, 34種)(どちらものべ数, 以下同じ), 消化器疾患(173件, 36種), 腎・肝疾患(48件, 20種)皮膚疾患(50件, 18種)に関するものが多かった。また, 特定の疾患で多かったのが糖尿病(35件, 13種)であった。中には前立腺疾患

(ビワ)、破傷風(サンショウ)、ポリープ(キハダ)といったものもあった。西洋医学的な効果を期待したものがいくつか見られ、この点からも、本地域での民間薬伝承は書物などからくる情報の影響を多分に受けていると考えられる。

利用方法については煎じて利用するもの(約37%、全情報件数に対する比率、以下同じ)が最も多く、次いで生での利用(約13%)、酒・焼酎漬(約8%)となっていた。生での利用が多かった品目としてはヨモギ(止血に生の葉を揉んで貼り付けるなど)、ユキノシタ(中耳炎に生葉の汁を点耳するなど)、アロエ(火傷に葉肉を貼り付けるなど)、オオバコ(腫れ物に生の葉を貼り付けるなど)があった。

今回調査で確認された薬材について、地方名、利用部位、利用目的、利用方法を表6にまとめた。なお、表6において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク(*)を付した。また、使用部位は主なものを記載した。

4. おわりに

今回調査した木屋平地区は18年度調査で行った東祖谷地区と隣接する地区であることから、どのような違いが見られるかが興味ある点であった。調査結果からすると、東祖谷地区とは余り相違のない民間薬情報が得られ、また、情報件数も近似していた。しかし、東祖谷地区での調査と大きく異なっていた点は、西洋医学が主として対象としている疾患に対する民間薬利用が認められること、および方言での回答が少なかったことである。また、イシャイラズ調査ではゲンノショウコを挙げた人が多くいた。これらの違いから見えてくるのは、この地区での民間薬伝承が書物やテレビから発信される新しい情報に置き換わろうとしているのではないかということである。

東祖谷地区でも利用方法を知らないという民間薬が多く見られたが、これはかつて業として薬草を採

取して販売していたことに起因すると考えられた。しかし、木屋平地区ではそのような事例が少ないにもかかわらず東祖谷地区よりも用途不明率が高かったことは、聞いたことがあるだけで実際には使っていないという民間薬が多いことを示唆している。また、民間薬を方言ではなく標準和名で回答しているケースが多いことから新しい情報の影響が強く感じられる。ゲンノショウコについては多くの書物で「イシャダオシ」、「イシャイラズ」などと記載されているが⁴、そのような影響を受けているものと思われる。新しい民間薬情報の利用価値を決して否定するものではないが、伝承医薬文化が風化していく現場を見る思いがしたのも正直な感想である。

ただ、ニホンマムシ、タヌキといった利用方法の煩雑な動物由来の生薬がしっかりと継承されていることは、現在でも世代間に民間薬伝承があることを如実に示しており、調査に伺った家の片隅にハメ焼酎を見たときには民間薬の根強さを感じずにはいられなかった。IT化の推進により情報の速度は年を追うごとに加速していき、過疎の小さな村や集落の隅々まで最新の情報が行き届くようになった。また一方では、地方、山間部の人口は減少し過疎化が一層加速されてきた。この両面から民間伝承は明らかに衰退を強いられ、何かしらの方策をとらなければ消滅してしまう日も遠くないと思われる。著者らは今回の調査が徳島県における医薬文化伝承保護の一助になればと切に願っている。

参考文献

1. 平成12年国勢調査, 総務局統計局
2. 徳島生薬学会(2007):『阿波学会紀要第53号 三好市「旧東祖谷山村」総合学術調査報告』, 阿波学会・徳島県立図書館p87.
3. 阿部近一(1990):『徳島県植物誌』教育出版センター.
4. 水野端夫, 田中俊弘(1955):『日本薬草全書』新日本法規, 240頁

表6 確認された民間薬

植物			
アオキ アオキシバ	葉 傷の化膿止め, とげ抜き*, 火傷* 葉を炙って柔らかくしてから患部に貼る	ウスバサイシン* サイシン	根, 葉 解熱 煎じる
アオジソ* アオジソ	葉 喉の痛み, 風邪の予防 酒に漬ける	ウツギ ウツゲ	枝 胃腸薬, 腹痛 枝を生のまま噛む, または枝の皮を煎じる
アケビ アケビ, アケビカズラ	茎 疲れ目, 目の充血, 目の痛み 蔓の切り口から吹いたら反対から汁が出るのでそれを点眼	ウド ウド	根, 芽 下痢*, 風邪*, 解熱*, 利尿* 芽は天ぷらやおひたしにして食べる, 根は煎じる
アザミ アザミ	根 解熱*, 胃薬* 煎じる	ウメ ウメ	果実 下痢*, 夏ばて*, 腹痛* 実を搗って搾って煮詰める
アズキ アズキ	種子 消化器疾患*, 腎疾患* 消化器疾患にはヤマゴボウと併せて煎じる, 腎疾患にはタラノキ, ナマコと併せる	ウラジロガシ ウラジロガシ, カシ, シラカシ, シロガシ	葉 結石, 利尿 煎じる
アスナロ* アスナロ	葉, 枝 肝疾患 煎じる	エビスグサ* ハブソウ	吹き出物 煎じる
アマチャヅル アマチャヅル, アマチャヅルチャ	全草 利尿*, 白髪予防* ドクダミと併せて利用, または単味利用	オウレン オウレン	根 胃薬 乾燥して煎じる
アロエ アロエ	葉 胃腸薬, 虫さされ, 火傷, 下痢* 虫さされや火傷には葉肉をそのまま患部に付ける, 胃腸薬としてはそのまま食べる	オオバコ オオバコ, オバコ	全草, 花 でき物, 解熱, 風邪, 消化器疾患, 咳止め, 肝臓病, 腫れ物, 傷 葉を生で揉んで患部に貼る, 全草を煎じる
イタドリ イタドリ	根 解熱* 煎じる	オオハング* ヤマゴンニャク	咳止め 煎じる
イチイ イチイ, アララギ	新芽, 葉, 茎 胃腸薬, 糖尿病, 腎疾患, 血糖低下*, 心臓病* 煎じる	オトギリソウ オトギリソウ	全草, 葉 風邪, 解熱, 神経痛, 健胃 煎じる, 酒漬
イチジク イチジク	葉, 樹液 婦人病, 目にゴミが入ったとき 婦人病には葉を浴用, 目薬としては茎から出る樹液を使う	オミナエシ* オミナエシ	婦人病 煎じる
イワタバコ イワタバコ, イワジシャ	全草 胃腸薬, 下痢*, 止痛* 粥に入れて食べる, 止痛には葉を軟膏にして外用	オモト オモト	全草, 根 腫れ物*, 強心*, 解熱* 全草を煎じる, 根をすり下ろして患部に外用
ウコン ウコン	根茎 肝疾患, 胃腸薬* 粉末にして飲む	カキドオシ カキドオシ, カキネドオシ	全草 糖尿病, 利尿* タラノキまたはドクダミと併せて煎じる
		カキノキ カキ, カキノハ	葉, 果実 利尿*, 解熱*, 降圧*, 虫さされ* 葉は蒸して干して利用, 果実は未熟なものを使う
		カラスウリ* カラスウリ	根茎 汗疹 粉にする

* 極端に情報数の少ない民間薬または利用目的

表6 確認された民間薬（続き）

カラスビシャク* カラスビシャク	根 咳止め、喘息 2-3個をドクダミ、ゲンノシヨウ コと混ぜて煎じる	ゲツケイジュ* ゲツケイジュ	強壯剤 酒漬
カリン カリン	果実 喉の疾患、強壯* 焼酎漬け	ゲンノシヨウコ ゲンノシヨウコ、 ニコシグサ、 イシャイラズ、 イシャダオシ	全草 消化器疾患、風邪、解熱、疲労回復、 毒の吸い出し、肝疾患、万能薬 煎じる、ドクダミなどと併せて煎じ る
カンアオイ* カンアオイ	葉、根 解熱 煎じる	ケンボナシ* テンボナシ	樹皮 肝疾患 煎じる
カンゾウ* カンゾウ	根 胃腸薬 他の薬と一緒に煎じる	ゴシュユ* ゴシン	果実 何にでも使う
キキョウ* キキョウ	婦人病	コバイケイソウ* ドス	皮膚病、吹き出物 患部に貼る、または浴用
キササゲ キササゲ	果実 腎疾患、発汗*、神経痛*、リウマチ* 実をヤマゴボウの根と煎じる、浴用	コハコベ* ハコベ	虫さされ 煎じる
キハダ キハダ、キワダ、 キワバ	樹皮 腹痛、胃腸薬、骨折*、鎮痛*、 ポリープ*、手の腫れ* 煎じる、粉末にして飲む、患部にそ のまま貼る	ザクロ* ザクロ	樹皮、根皮 駆虫、健胃 煎じる
キビ* コキビ	果実 腎臓病、利尿 餅にする	サトイモ* サトイモ	茎 産後の血流改善 煎じる
キャラボク* キャラ	樹皮 糖尿病 あまがわの下の薄い皮を煎じる	サフラン サフラン	花柱 風邪、解熱 湯に振り出す
キランソウ* キランソウ	葉 外傷 患部に貼り付ける	サンシュユ* サンシュ	果実 強壯
キンカン* キンカン	果実 止咳、風邪 酒に漬ける	サンシヨウ* サンシヨウ、サンシヨ	皮、果実 止痛、破傷風、解熱 煎じる
クコ クコ	枝、葉、茎、果実 胃腸薬、神経痛* 枝は湯で振り出す、煎じる	シオデ* シオデ	全草 止咳、喘息 煎じる
クサノオウ* クサノオウ	疣贅	シャクナゲ* シャクナゲ	葉 糖尿、がん
クズ* クズ	根 風邪	シュロ* シュロ	新芽 糖尿病 新芽を乾燥して煎じる
クロマツ* クロマツ	葉、枝 血行改善 葉、枝の緑の部分を酒に漬ける	シヨウガ* シヨウガ	根の皮付近 解熱、咳 ネギと併せて煎じる
クロモジ* クロモジ	枝、葉 皮膚病 枝、葉を干して布に包んで使う	シヨウブ* シヨウブ	葉 痛風、しもやけ 葉を湯に浸ける（しもやけ）、また は蒸す
クワ* クワ	葉 糖尿 煎じる	スイカズラ* ニンドウカズラ	花蕾 神経痛 煎じる

表6 確認された民間薬 (続き)

スイセン スイセン	鱗茎 脚の痛み すり下ろし, 小麦粉と練って布に入れ患部に貼る	ツゲ* ツゲ	ツゲ 胸焼け 葉をそのまま食べる
スギ* スギ	葉, 樹枝 蚊よけ, あかぎれ	ツツラフジ オオツツラフジ, ツツラ, ツツラカズラ, カズラ	根, 蔓 神経痛 生のまま使う
スギナ スギナ, マツナ	全草 糖尿病, かぶれ* 煎じる, 外用には塩を加えて患部に 揉む	ツユクサ ツユクサ, カマツカ	全草 肝疾患, 強壯* 煎じる
セキショウ* セキショウ	全草 頭痛, 止痒 地上部を入浴剤にする (止痒)	ツリガネニンジン* ツリガネニンジン	根 滋養, 強壯 煎じる
セリ* セリ	全草 はしか エビの殻と併せて煎じる	ツワブキ ツワブキ, ツバブキ, ツワ	葉 腫れ, 汗疹*, 毒の吸い出し, 蓄膿* 葉を塩もみして患部に貼り付ける, 炙って柔らかくしてから患部に貼る
センブリ センブリ	全草 消化器疾患, 止痛, 子供の毒だし* 煎じる, 振り出す	トウモロコシ トウモロコシ, ナンバ	雄蕊 (毛) 糖尿病, 腎疾患 煎じる
ダイコン* ダイコン	葉, 根 婦人病, 止咳, 解熱 おろして蜂蜜を入れて飲む, 葉を浴 用	ドクダミ ドクダミ, ジュウヤク, イシャダオシ	全草 利尿薬, 消化器疾患, 風邪, 解熱, 婦人病, 鼻づまり, 皮膚疾患, 毒消 し, 駆虫, 吹き出物, 外傷, 汗疹 煎じる, 生葉を塩で揉んで鼻に詰め る (鼻づまり), 銀紙に包んで焼い てつぶして患部に貼る (外用), 茶 料, 焼酎漬け, 浴用
ダイコンソウ ダイコンソウ	全草 胃腸薬, 解熱* 煎じる		
ダイズ* クロダイズ	種子 降圧 マメのゆで汁	トゲナシウコギ* トゲナシウコギ	糖尿, 強壯 煎じる
ダイダイ* ダイダイ	果皮 風邪 煎じる	トチバニンジン* ケニンジン, トチバニンジン	根茎 解熱, 去痰*, 頭痛, 強壯, 胃腸薬*, 疲労回復* 煎じる
タデ タデ	葉 胃腸薬, 暑気あたり 葉を生で (キュウリと和えて) 食べ る, 梅酢, 塩で揉むは	トチュウ* トチュウ	高脂血症 茶料
タマネギ* タマネギ	鱗茎の皮 血行改善 茶料にする	ナンテン シロナンテン, ナンテン	果実, 葉 止咳, 腹痛*, 肝疾患*, 逆流性食道炎* 白実の物を使う, 焼酎漬け, 煎じる
タラノキ タラノキ, タラ	樹皮, 根 利尿, 糖尿病, 駆虫*, 肝機能改善* 煎じる, ナマコ, アズキを併せて煎 じる	ニガキ ニガキ	樹皮 胃腸薬 樹皮を噛む
タンポポ タンポポ	根 解熱*, 胃腸薬* 煎じる	ニホンカボチャ* カボチャ	種子 喉が痛いとき
チリメンジン シソ, チソ	葉, 茎 胃腸薬*, 暑気あたり*, 降圧*, 外傷*, 貧血* 茎, 葉を煎じるまたは漬ける, 天ぷ らにして食べる, ジュースにする	ニラ ニラ	全草 腹痛*, 化膿止め 米と味噌に全草を入れて粥にする, 塩で揉んで患部に貼り付ける
		ネギ* ネギ	地上部 解熱, 咳 ショウガと煎じる

表6 確認された民間薬（続き）

パセリ* パセリ	地上部 肝機能改善 食べる	ヤブラン* ヤブラン	強壯 煎じる
ハトムギ* ハトムギ	種子 疣贅 茶料	ヤマゴボウ ヤマゴボウ, ヤマカブラ	根 腎疾患, 利尿, 膀胱炎*, 肝疾患* 煎じる, アズキやキササゲと併せて 煎じる
ヒガンバナ ヒガンバナ, ツプロ, マンジュシャゲ	鱗茎 虫さされ, 膝の痛み すり下ろしてヒマワリの種や小麦粉 と混ぜて使う, またはそのまま患部 に貼る	ヤマシャクヤク* シャクヤク	根 婦人病 煎じる
ヒトツバ* ヒトツバ	糖尿病, 胆石 煎じる	ユキノシタ ユキノシタ	葉 中耳炎, 耳の痛み, 耳だれ, 止血, 止咳, 外傷, しもやけ 搾った汁を耳に入れる, (塩などで) 揉んで患部に貼る, 茶料
ビワ ビワ	葉, 種子 脳梗塞の後遺症*, 解熱*, 脚や肩の 痛み*, 肝疾患, 前立腺疾患*, 胃腸 薬*, がん 葉を煎じる, 焼酎漬けにする, 炙っ て揉んで患部にすり込む (外用), 種子を粉にして耳かき一杯分ぐらい 飲む, 仁を使う	ユズ ユズ	皮, 種子 腫の荒れ*, 止咳*, 糖尿* 皮は浴用, 焼酎漬け
フキ フキ	葉 止血, 外傷, ウジ殺し あぶって塩もみして患部に貼る	ヨモギ ヨモギ, ヨゴミ, ヨゴメ	葉 止血, 外傷, 消化器疾患, 痔, 汗疹, 目眩*, 神経痛*, リウマチ 揉んで汁を患部に付ける, 浴用, 食用
フユイチゴ* カンイチゴ	全草 風邪, 止咳	リンドウ* リンドウ	健胃薬
フユノハナワラビ* カンワラビ	胞子 熱冷まし, 口内炎, 唇の乾燥 患部に付ける	動物	
ヘクソカズラ ヘクソカズラ	虫さされ 揉んで患部に貼り付ける, 汁を付け る	アカゲラ* アカガシラ	全体 鼻血 黒焼
ヘチマ* ヘチマ	樹液 化粧水 根に傷を付けて出る汁を使う	イノシシ イノシシ	胆嚢 解熱 湯に溶く, 茹でたゆで汁
ホウセンカ ホウセンカ, シロホウセンカ	花, 果実 虫さされ, かゆみ止め, 咳*, 汗疹*, 火傷* 白い花を焼酎に漬けて患部に塗る, 実を酒に漬ける	ウツボ* ウツボ	催乳 食べる
マタタビ マタタビ	果実, 樹液 疲労回復, 神経痛, 滋養強壯, 目に ゴミが入ったとき* 焼酎漬けを飲む, 実を粉にして使う, 点眼は汁を目に入れる	エビ エビノカラ	外殻 はしか セリと配合して煎じる
マツ* マツ	強壯, 風邪 水に浸けて日光に当てる	カエル* カエル	卵 火傷 卵をそのまま付ける
ミツバ* ミツバ	葉 不眠 フユイチゴの葉, 根と一緒に煎じる	キジ* キジ	脚 腫れ物, 膿 脚の皮を貼り付ける
		コイ クロゴイ, コイ	皮, 血液 解熱*, 吸い出し*, 風邪* 皮を使う, 生き血を飲む
		サル サル	子供の発熱*, 下痢*, 腹痛*, 頭痛* 肉の塩漬, 黒焼き

表6 確認された民間薬 (続き)

サンショウウオ* サンショウウオ	疳の虫 黒焼き	梅干し ウメボシ	ムカデに噛まれたとき
シカ* シカ	肝臓 解熱	その他	
タヌキ タヌキ	胆嚢 解熱, 胃腸疾患 湯に溶く, ゆで汁	塵芥 タモトグサ	傷の止血 揉んで患部に付ける
ツキノワグマ クマ	胆嚢 解熱, 胃腸薬* 湯で溶かす	動物薬	
テン* テン	胆嚢 タヌキの胆嚢で当たったとき	アセビ* アセビ	葉 ウシのシラミ殺し 茹で汁を使う
ナマコ* ナマコ	全体 消化器疾患 タラノキ, アズキと配合	トウガラシ* トウガラシ	果実 ニワトリが弱ったとき 粉にして水に入れる
ニホンザル サル	肉, 胆嚢 解熱, 婦人病 肉のみそ漬, 肝・胆を粉にして飲む		
ニホンマムシ マムシ, ハブ, ハメ	全身, 皮, 目 腹痛, 解熱, 滋養強壮, 捻挫, 外傷, 鎮痛, 化膿止め 皮は患部に貼り付ける, 身は焼酎漬 けまたは食用, 生の利用もある		
ハチミツ* ハチミツ	便秘, 中耳炎 焼酎に入れるまたは生で利用		
ミミズ* ミミズ	解熱, 子供の耳のただれ		
菌類			
サルノコシカケ サルノコシカケ, キノコ, オジノシリスケ, オジュウノシリスケ	がん 削って煎じる, 甘草と配合して煎じる		
シイタケ* シイタケ	血圧降下		
マンネンタケ* マンネンタケ	がん		
加工品			
ミソ ミソ	火傷		
梅エキス ウメエキス	胃腸薬, 下痢 飲む		